

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 65 号

発行日

2025.12. 15

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○人生は、マラソン(単独走)か、駅伝(リレー走)か？

ある意味陳腐な話題とはなるが、最近のユーチューブ視聴(哲学・思想Ⅱ歴史認識や文芸批評)に際して、直接的には文芸を通してではあるが(何人かのインフルエンサーが描き出す)、学問、否、人生のあり方を考えさせられている(本当に刺激的で、これまでの自分の思索、知識のあり様が、深いところから揺さ振りをかけられている)！言い換えれば、自分自身のこれまでの様々な経験や思考の断片(こう言わざるを得ない！)が、それらによって焙り出され、再構成させられているとも言える！本当に、彼らの知性、そして、彼らが創り出している知の世界、否、その仲間集団が羨ましい！！

その中で、誰かが言っていた(多分H.Y氏？この人は凄いい)、学問・文芸は、一種の「リレー」であるということに、ハッとさせられた！ただし、それは、当事者達の明示的な行為ではなく(それもあるかもしれないが)、結果として(だが必然？)生起してくるものであるというような捉え方である！！とにかく、その指摘が、真に納得させられるものであり、今の、自分の思索(パソコンを使った！この「通信」もそうである！)を、優しく受け止めてくれるようにも思えたのである！

要は、自分の「書く行為」が、多少なりとも意味のあるものに思えるということであるが(自己満足？単なる老後の暇つぶしではない？)、それ自身が、これからの生き様に力を与えてくれるということである(たとえ身近な人々、否、奥さんが分かってくれなくとも？笑！！よく、人生は「マラソン(単独走)」に譬えられるが、それを、「駅伝(リレー走)」として捉えれば、ある意味報われる？バトン／襷の所在は心許ないが、書いていれば何とかなる？そう思っている物言いである！！

○こんなことがあつていいのか？だが…

過日、久し振りに、長女一家が住む宮崎に行っていた！孫3人の活躍(サッカー)を見に行くことが主たる目的であったが、個人的には、最後の最後に飛んでもない悲惨な目(情けないアクシデント？)にも遭遇し、別な意味でも、忘れ得ぬ旅となった！具体的な内容は、ここでは書けないが、年を取ることに、いいこともあるが(本当にそう思う！)、こと体力や身体機能の衰えには、ほとほと嫌気がさす！だが、これもまた、今の自分なのである！本当は、こんなことを書きたくないのであるが、これもまた、自らの、今の生の一部ではあるので、その記録として残しておきたいということである！

ということ、そのことについては、これ以上書かないが、目的の成就ということでは、今回の旅は、そこそこ達成された！一つだけ悔やまれるのは、双子(高校生)の弟の、本戦での不出場である(そして、試合も負けた！)！これもまた、詳しいことは書けないが、監督の選手起用の問題であつたようである！！もちろん、その真相については、私には、何とも言えないが、もう一人の孫(兄)の活躍が目立ってみたいので、私には、非常に複雑な光景であつた(ちなみに、昨年は、立場が逆であつた！)！

チームプレーであるので、しかも、沢山の選手の起用というものが、その基本にあるので、さらに、そうした中で、選手達は、人間的にも成長していくので(その時は多少の紆余曲折はあつても？)、双子弟には、負けずに頑張つて欲しい！そして、長女一家の頑張りが報われて欲しいと祈るのみである(本当に、みんな頑張っている！)！

○「保守」と「革新」は、何に向かって対峙しているのか？

さて、最近ユーチューブにハマっていることは告白済みであるが、これまで忌避(嫌悪？)していた政治論議にも、ある種の興味を抱き始めている？なかなか説明しづらいが、いわゆる「保守」と「革新」が、一体何に向かって対峙(対立)しているのかというところが、少し俯瞰的に分かるようになってきたということである！！それは、観念的には、今ある(これまでであつた)ものを保持(天事に)するという立場(価値観)と、それを変えよう(壊そう)とする立場(価値観)があるということであるが(前者は、伝統やこれまでの秩序を重んじる／後者は、それを壊す、変えようとする？)、その対立関係が変質してきている？そして、そこに「新しい保守？」が、別途顔を出してきて、その対立構図に新たな様相が加わっている！それが何を意味するのかへの、私なりの解答である！

別言すれば、これまでの対峙(対立)状況に、ある種の苛立ち、そして、諦めを決め込んでいた人達が、そこに新たに参入し、これまでとは違った力関係が形成されてきているということであるが、これを、どのように受け止めるのかということである！！単純に、それは、既存の政党や政治勢力(与党であろうが、野党であろうが！)に対する、ある種の異議申し立てであるわけであるが、基本的にはいいことであり(一時的には、それなりの混乱があるとしても！)、新たな進展を生み出す、ある種の出发点(一党独裁や馴れ合い(二大政党制からの脱却？)でもあるということである！！

だが、冷静に考えてみると、「人が生きる」ということは、「何かを守る、そして変える」ということである！その双方の営みによつて、それが成り立っているということであるが(保守が革新的であつたり、革新が保守的であつたりするのは、その証左？だから、そこには、「保守」も「革新」もない？ただ、一所懸命に対処するだけ！)、自分は、保守であるとか、革新であるとか言つても、最早、それだけでは意味がない！！要は、自分が、どういうものを守り、どういうものを変えていきたいのか、その具体が、逐一問われるということである！そして、その際、何を選べば、自らが幸せとなるのか？そこを、一人一人が考え、動いていくしかないということである(いわゆる「国益」も、その延長線上にある？)！

○「今を生きて」「そこに生きる」！結局はそこに!!

本当に、今、私（こゝでは堂本）の頭の中は、ある種の精神の高揚で一杯である（身体的不調にも拘らず）！それは、繰り返し述べるように（井上氏も告白しているように）、ネット上で見るとある人達の言論に刺激を受けてのものである！どうして、こういう人達がいるのであろうか？何故、これまで、こういう人達の存在を知らなかったのでしょうか？努力不足と言われれば、まさにそれまでであるが、それほどまでに、自分の世界が狭小で、独り善がりもよいところであつたということであらう!!

だが、どうして今頃気付いたのであろうか？違いは、ネット情報に接しただけである！返す返すも、残念である！とは言え、それを言ったからって、どうしようもない！それが、まさに「今」なのだから！ただ、私にも、少しの意地はある！自分だって、それなりに悩み、考え、そしてこれまで生きてきたのである！多くは、無様な結果とならざるを得なかったが、そこで、私なりの存在意義は果たせたとはいえるであらう？誰も言つてはくれないが（笑）、それが、逆に、今の私の意地にもなっている!!

そこで、少し、その意地を表象してみると、その人達の言論、そして、彼らによって示される（教えられる）、数多の偉人の功績や行状（国内外、そして時間の幅を超えて）は、何も理解不能なものではなく、まさに「今を生きて」、そして「そこに生きる」者にとっては、ある意味当たり前のことであるということである！まあ、それを言語化、抽象化（体系化）できるかどうか、大きな違いなのであるが！ということ、で、「今を生きて」／「そこに生きる」という表記（思想）は、私なりのものであるが、政治や経済、そして教育にとつては、まさに、その「原点」となるものである！インフルエンサーや、彼らが分析・紹介する作家や思想家だけの専有物ではないということである！何とも不遜ではあるが、私には、そう思われる（否、思いたい）否、否、そう思つても何とか許される？、そういうことである!!

○それにしても、凄い人達がいた！そして今も！

まあ、上記のことはともかく、改めて、世界（もちろん我が国にも）は、とてつもなく凄い人達がいたものである！そして、今も！だが、残念ながら、その人達の存在や、その活躍については、なかなか触れることは難しい!!ただし、私が、ここで言つている「凄い人（偉人）」とは、偉人伝や教科書に載つていような人達だけのことではな（もちろん、彼らも、それに含まれることは間違いないが）！まさに、名も無き無数の「凄い人（偉人）」達が、ここに居るといふことである！それ故、大事なことは、何が

凄（偉い）のか？それを、自らの目で、頭で、そして、足で稼いで、感じ入ることができるようになるということである！ただし、妙な偶像崇拜や怪しげな集団活動は、却つて迷惑であるが！だが、いずれにしても、現在、そのようなことができる環境（場や関係）がない（あつたとしても歪なことが多い）!!よく「絆」といふようなことが言われるが、好ましい人間関係には、必ずそのような「凄い人（偉人）」がいるのである!!そのことを、忘れてはいけない!!

＜短歌に託して＞「今を」「そこに」を軸にして!!
・人生は マラソンか？ それとも駆伝か？
願わくば 後者であれ！

・こんなことがあつていいのか？ そう思つても
その現実はある！ 乗り切るのみ！

・「保守」と「革新」 どちらも必要！
でもそれは 平板な「中庸」を導かず！

・真理や正義は みな平等？
ただその所有形態が 違ふのみ？

・いつの世も 凄い人達はいる！
だがそれも悲喜こもこも 生き様は一樣でなく！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕65<

○突然だが、「こゝで」「高天原神話」を探る？！その5ー

次は、「スサノオ追放と八岐大蛇」を退治！についてである！これは、先にも述べたが、倭国（邪馬台国）連合（高天原（北部九州）を混乱させ、その後、出雲に移動し、その地で、支配勢力となつた集団がいたことを示すものと思われる（あくまでも、「記紀」は、そのようにみえているということである）!!ただし、冷静に捉えれば、その一連の騒動は、いわゆる「倭国大乱（倭国）の豪族（伊都国・邪馬台国の台頭）」を指しているとも考えられるが（少なくとも、その原因あるいは、その途中経過を表している）、その背景には、大陸と半島との交易路の変遷（北部九州と出雲と半島による三角航路の出現）という時代状況が被さつていようにも思われる（北部九州沿岸部と日本海沿岸部の諸勢力（倭国・邪馬台国）連合と出雲勢力の攻防）!!すなわち、素戔嗚命（子の「イタケル」「オオヤツヒメ」「ツマツヒメ」を含む）の素性や出身地については、まだまだ判然とはしないが（丹後出身？新羅出身？）、彼らの進出や移動の経緯が、そこには示されていることは間違いない（彼らは、最初は、北部九州（伊都国）に上陸し、日本海沿岸を、徐々に東の方へ移つていったように思われる！製鉄集団?!「越の八岐大蛇」と言う言い方もある）、出雲（かの斐伊川流域）に進出していた越の勢力を、彼らが征服して、その後の出雲を支配した（その後、子または6世孫の「天國主命」が、そこでいわゆる「国つくり（国譲り）」を行つた）ということである!!

このように、この「スサノオ追放と『八岐大蛇退治』」については、半島と大陸との交易活動において、鉄や銅、あるいは辰砂の採掘や確保を巡る交易路の開拓・変更に伴うものであつたと考えているが（とりわけ「日本海航路」、北部九州沿岸、山陰、北陸、丹後を越え、諸勢力の集散離合の地であつたということである!!ただし、この物語が、実際の史実をどの程度示しているかどうかは、判然としないが、そこに、「アメノヒボコ（ツスガアラシト）」（神功皇后祖先）が関係していることは、容易に推察され得る!!しかも、問題は、そこに、「応神」や「垂仁」が、どのように絡んでいるかである!!謎は、深い！（つづく）

（編集後記）今年も、気がつけば、後半月である！それにしても、この数カ月は、これまでとは違つた日々であつた！幾つかの県外への旅。そこでの家族・知己との出合いは、楽しくもあつたが、複雑な自己受容への旅でもあつた！（井上／堂本）